

案 件：第3回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	令和6年2月19日（月）午前10時00分～午後11時30分
場 所	豊橋市役所 東館12階 東122会議室
参 加 者	委員 13名 アドバイザー 1名 事務局 長寿介護課 市民協働推進課

議事

(1) 助け合い活動時の家庭ごみの処理について

- ・事務局より説明

－ 意見 －

- ・委員 : 助け合い活動時のごみ屋敷清掃のごみも対象になるのか。
- ・事務局 : 現在は助け合い活動時の庭木の剪定で出たごみなどを考えているが、事例があればごみ屋敷で出たごみについても考えたい。
- ・委員 : 地域包括支援センターも市の立会いのもと、ごみ屋敷の清掃を行うことがある。その際、資源化センターとこちら側で、ごみの出し方に齟齬がある場合がある。助け合い活動団体がごみの分別方法でトラブルになってしまうのは良くない。
- ・事務局 : 団体には口頭で詳しく説明する予定。
- ・委員 : 助け合い活動をするなかで、空き家になっているところがある。空き家をそのまましておく苦情がくるので、家族などから依頼されて片付けをすることがある。ごみ処理がしやすくなるのは大変ありがたい。
- ・委員 : 良い取組だと思う。年度途中で助け合い活動を始めた団体も申請できると良い。
- ・事務局 : 資源化センターと相談中。臨機応変に対応したい。

(2) お互いさまのまちづくりアニュアルレポートについて

- ・事務局より説明

－ 意見 －

- ・事務局 : 例年委員の皆さんに記入をさせていただいている、取組結果シートについて委員同士で評価をする他者評価を新しい試みとして考えている。
- ・アドバイザー : 自身で評価をするだけだと自己満足で終わってしまう可能性がある。批判をするのではなく、良いところを認めてより良い方法を提案すると見えてくるものがあるのではないかと。他者評価をし、できることを探し合うことによってアニュアルレポートも充実すると思う。
- ・委員 : 協議会では認知度向上プラン、担い手創出プラン、活動応援プランの3本の軸をもって動いているが、認知度向上プランにおいては広報に力を入れたり、活動応援プランにおいては議事1の助け合い活動のごみ処理問題の改善を試みたりするなど、様々な取組を行っていることが分かる。それぞれの団体がそれぞれの枠組みの中でお互いさまのまちづくりの取組を行っている。
- ・アドバイザー : アニュアルレポートについては、前年度と比べてどのくらい頑張ったか、数値などを表やグラフで表すと一目見て分かりやすい。
- ・委員 : 支え合い活動の拠点がどこにあるかを地図上に表すと分かりやすい。

- 委員 : 支え合い活動団体は増えているように見えるが、活動をやめてしまった団体もあるのか。
- 事務局 : 高齢化によって活動をやめてしまった団体も数団体ある。
- アドバイザー : どの分野においても、支えられる側が増え、支える側が減っている。ボランティアも高齢化している。支える人をつくる必要があるため、若い人を発掘していく必要がある。課を越えて様々な取組を行っていかねばいけない。

(3) まちの居場所づくり活動者交流会の実施報告

• 事務局より説明

— 意見 —

- 委員 : 30代や40代は仕事と子育てで忙しいが、自分の団体をもって活動していきたい人は増えていると思う。若い年代の様々な人からの相談を受けるが、間の世代ということで幅広い悩みをもっている。そして自己実現が先という意識がある。世代ごとに使っているSNSが違うので、周知したい世代に合ったSNSで情報発信していくことが大切。居場所活動をしている団体は、団体ごとに思いをもって活動をしているので、団体ごとにフォーカスした単発の動画を作ってはどうか。どんな人が交流会に参加したか分かるように、アンケートをHPに掲載するのも良いと思う。
- 委員 : 「まちの居場所づくり活動者交流会」というネーミングをもう少し柔らかい感じにした方が参加しやすい。副題として、どんな交流会かが分かるようなものを付けた方が良い。
- アドバイザー : 豊川市ではボランティア団体取材したものをDVDにして高齢者に配布している。ケーブルテレビを利用するのはどうか。新聞や報道発表なども利用すると良い。
- 委員 : 活動者交流会という名前だったので、活動をしている人が出ないといけなそうと思い参加した。興味のある人も参加しやすいように変えた方が良いと思う。テーマは校区ごとでやっている居場所取材している。
- アドバイザー : 交流会に参加してくれた人は満足だったと思う。来年は違う視点で工夫することが大切。
- 委員 : まずは足を運んでもらわなければ。
- 委員 : 活動者交流会を圏域ごとにやりたい。自治会が居場所について興味をもってほしい。民生委員と自治会のコミュニケーションがとれていない地域があるので、繋がりをつくっていかねばいけないと感じている。
- 委員 : 自治会と民生委員で溝がある地区もあるのが現状。
- 委員 : 今年度初めて民生委員の定例会に自治会役員が合流して、情報交換を密にやっいていこうということや、個別訪問をどのようにやっていくかということについて話し合った。第一歩を踏み出した。
- アドバイザー : 自治会、民生委員、自主防災会などが一斉に集まるような会を開いて、顔が見える関係性をつくっていかねばいけない。
- 委員 : みんなで地域をどういう風に変えていくかという意識をもたなければいけない。

(4) 令和5年度の取り組み結果について

・事務局より説明

－ 意見 －

- ・委員 : 豊橋南高校の意見交換会に参加した。高校生はどこでどのような活動をしているかという情報について分かっていない。やる気・熱気はとても感じた。
- ・委員 : 勉強という面でも学生にはこういった意見交換会に参加してほしい。
- ・委員 : 岩田校区で学生を巻き込んだスマホ教室を行っているが、学生は試験や研修などで忙しい。メンバーがなかなか集まらない。
- ・委員 : 下条の居場所には、学生が参加してくれた。高齢者からは学生と交流すると元気が出るという意見が出る。
- ・アドバイザー : 居場所でのイベントなどのボランティア募集が少ないというのはどういう意味か。
- ・事務局 : 市が把握していない地域のボランティア募集などもたくさんある。地域でやっているイベントを学生が知らない。知っていたら行ったのにといい意見もあった。
- ・アドバイザー : ボランティア募集の情報はどこにあるか。
- ・市民協働推進課 : カリオン広場にボランティア募集のチラシなどが置いてある。インスタグラムでも情報発信を行っている。
- ・アドバイザー : 子どもから標語や川柳を集めるということも周知方法の1つとしてある。
- ・委員 : 小学校に居場所活動を周知して、代休の日に参加してもらおう取組をした。いきなり参加してもらおうのも可能。学校の行事で小学生と会うと声をかけてくれる。
- ・委員 : 居場所で手品をやると小さい子もたくさん来てくれた。いつか来てくれるだろうという種まきをしている。

3 その他

- ・令和6年度 第1回協議会の日程について

令和6年6月3日(月) 10時00分～